

平成22年11月

＝ 発 行 ＝

秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

TEL : 018-865-1171

FAX : 018-824-1799

E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp

編集担当：社会教育アドバイザー



「読書推進フォーラム秋田2010」で、作家の椎名誠氏の講演を拝聴しました。椎名氏は、少年時代に出会った一冊の本がご自身の人生に大きな影響を与えたことをしみじみと語りました。参加者は、椎名誠氏の豊かな人間性に触れ、人生の旅の話に魅了されたようでした。

秋も深まり、こたつの季節が訪れました。ゆっくりじっくり読書を楽しみたいものです。子どもたちにも、人生を豊かにする本との出会いがありますように祈る晩秋です。

### 美の国カレッジ「あきた現代学」 「秋田の可能性にかける！」 佐藤京子氏講演

演題『夏瀬温泉の挑戦～温泉女将の再生をかけた情熱～』



『念ずれば花開く』と話す夏瀬温泉「都わすれ」女将佐藤京子さん。自然の美しい秋田に生まれ育ち、温泉という祖父母の残してくれたものがあり、美しい秋田を世界に広めたいという思いがあったので、ひたむきに挑戦してきたと語る佐藤さん。講演は、感動的で聴衆を魅了しました。

「日本一の原因風景をもっている秋田県、少しシャイだけど優しさや思いやりの心をもった人々が暮らす秋田県」と本県のすばらしさを語り続けました。佐藤さんは、韓国ドラマ「アイリス」（イ・ビョンホン主演）の撮影に際し、田沢湖ホテル「イスキア」を宿泊施設として無償で提供したことが評価され、『観光庁長官表彰』を受賞されました。また、経営する「妙乃湯」や「都わすれ」は、魅力的な温泉宿として全国的にも評判が高く、講演を拝聴し、『女将のおもてなしの心や行き届いたサービス』『生かされて生きていると考えて行動する女将の生き方』が、訪れた人々の心に響き、満たされた癒しの空間を創造しているのではないかと思います。

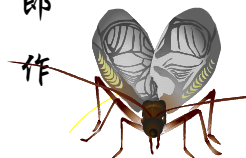
「景気の悪い時代だからこそ、真剣に考えることができる。その時間を与えてもらっていると思えばいいのではないか」「美しい日本、美しい秋田を誇りにして、たくさんの笑顔に出会えることを楽しみにして、幸せを感じながら精一杯生きていく」と語る佐藤さんに、秋田の女性の知恵と勇気と底力、そして潔さを感じました。内面からあふれる美しさに感銘し、「本物の秋田美人だ!」と感じました。困難を乗り越えながら可能性に挑戦していく元気と勇気こそ、道を切り開いていく力になることを学びました。

すがれ虫いづくへ越して行つたやら  
稲穂日射しなみなみ野に降りり  
朝夕のバスは一便柿たわわ

武藤

四郎

作



「昔遊び」は、すごい！ <高齢者と子どもがかかわりあう遊びは、双方に効果あり！>

人間の脳の「前頭前野」という部分は、思考したり、行動や感情の抑制をしたり、人とコミュニケーションを取るなど、「人間らしい判断」を司っている場所と言われています。「頭のいい子」「態度のよい子」にしたい場合、この前頭前野を鍛え、活性化させることが重要だということです。

また、「昔遊び」と呼ばれている日本に昔から伝わるアクティビティーに前頭前野を活性化させる傾向が見られることが分かってきました。(折り紙・わらじ編み、百人一首、パズル、わなげ等)子どもと交流することで、高齢者の脳も若返るようです。高齢者のみなさん、子どもたちに「昔遊び」を伝授してくださいませようお願いします。

## 生涯学習ボランティア研修会 「ボランティアのススメ」開催

平成22年10月23日（土）秋田県生涯学習センターを会場に、聖徳大学准教授の齊藤ゆか氏の基調講話とパネルディスカッションが行われました。講話は、「創年のススメ～お誘いボランティアに見る生涯学習～」でした。パネルディスカッションでは、能代市公民館ボランティア「くりっぶ」代表の小山佳代子氏、「秋田県生涯学習インストラクターの会」理事の佐藤志保子氏、「地域マイスター養成講座」東成瀬キャンパス修了者の宇佐美四十二氏の実践発表があり、約50人のボランティア関係者が熱心に聴講し、意見交換を行いました。



### < 基調講話から >

「創年」とは、常に挑戦する姿勢を忘れずに、周囲のために自分を生かそうとする人を指しています。高齢者（定年以降の年齢層）は、7割の人が社会のために役立ちたいと考えているのですが、実際にボランティアを行う人は多くありません。「プロダクティブ・エイジング」という、自分なりに生き甲斐を見つけて生涯現役として周囲のために自分の力を生かしながら年齢を重ねていくことが大切です。退職者年齢層が増えてきており、パワーのある方々をボランティアに巻き込んでいきたいものです。ボランティアの後継者をどう作るかがこれからの課題です。「お誘いボランティア」で誘っていくことも名案です。また、評価の視点に立って、ボランティアのメンバー、参加者、子どもたちがどう変化してきたかを記録していくことも大切です。

### < 生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期 >

「秋田県認定こども園公開保育研究協議会」より

平成22年10月8日～9日「秋田県認定こども園公開保育研究協議会」が開催され、青森県から沖縄県までの200人を超える関係者が乳幼児期の子どもの育て方について、熱心に研修しました。1日目は、認定こども園である千畑幼稚園・千畑保育園の保育公開と研究協議。2日目は、幼保推進課から「秋田県認定こども園の概要」の説明と2園の発表があり、続いて大妻女子大学教授、柴崎正行氏の講演がありました。演題は、「子どもの最善の利益を保障する保育の在り方」でした。

柴崎先生は「幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う」「幼児期は、生涯にわたる教育の基礎を培う」「養護と教育は、一体的に行われていくものである」など、幼児期の保育の重要性を話され、『身体の活動力を培うこと』『人間形成の基礎を培うこと』『学ぶ力の基礎を培うこと』『心の回復力の基盤づくり』を重視する必要があると強調されました。また幼児期は、「友達がいること」や「思いっきり遊べること」が大事であるという言葉に共感しました。

講演を拝聴し、幼児期には、「子どもの目線に立った子育て」が必要であることを再認識しました。変化の激しい時代に生きる子どものストレスも、粗末に扱えません。先生が話された『心の回復力の基盤づくり』という言葉の重みを噛みしめました。また、小学校との連携を図ることや、保護者との相互理解を大切にしながら成長の証として、ポート・フォリオを作ることなども強く印象に残りました。

### < 心の回復力の基盤づくり >

- ① 心を安定させる場や物がある。
- ② 何でも愚痴れる仲間や友達がいる。
- ③ 大好きな歌や踊りがある。
- ④ 存分に描いたり造ったりすることができる。

